

脊髄小脳変性症の通所リハビリ利用者に対して、
患者会への参加を通して心理的不安の軽減が
見られた一症例

ゆきよしクリニック 通所リハビリテーション

尾崎千晶 (PT)

池浦一樹 (ST)

坂田香奈恵 (OT)

荻荘則幸 (MD)

**日本ディケア学会 第23回年次大会千葉大会
筆頭演者のCOI開示**

筆頭演者氏名： 尾崎千晶 (PT)

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

症例紹介

主病名	SCD(平成29年5月診断)
年齢・性別	65歳女性
家族構成, 性格	夫と二人暮らし, 内気
評価	<ul style="list-style-type: none">・SCDにおける小脳性運動失調の障害度ステージ1/5(歩行自立)・Barthel Index 100/100点
主訴	「病気は悪くなる一方で不安. リハビリの必要性が分からない。」
障害受容の過程	ショック～期待～悲嘆

通所リハビリでの関わり

〈身体面〉

- ・維持, 予防のためのトレーニング

〈心理面〉

- ・個別リハビリでの面談
- ・通所リハビリスタッフとのコミュニケーション
- ・他利用者とのコミュニケーションの場の提供

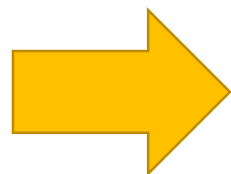
通所リハビリでの関わり

不安

葛藤

「病気は悪くなる一方だから、
リハビリの必要性が分からない」

...やはり不安や葛藤は残存



患者会の紹介を検討した

患者会について

ピアサポート

患者会とは
患者同士での情報交換、
悩みを話し合う場所

- ・定例会（1か月に1回など）
- ・医師を講師に招き勉強会
- ・電話やメールでの相談受付
- ・ホームページでの情報提供



患者会の紹介にあたっての検討事項

メリット	デメリット
病気と闘っているのは自分だけじゃないと知ることができる	進行性疾患の場合、知りたくない自分の未来を目の当たりにしてしまう

1)

患者会の紹介～利用

面談を通して、慎重に...

患者会の情報紹介

➡ 「こういうところもあるんだ...」
「同じ疾患の人に会ってみたい」

ケアマネジャーと見学，患者会への参加へ

患者会利用後の変化

リハビリに意欲的に取り組み、生活機能を維持している方と多く会った。

(家事, 買い物, 車の運転など)

「自分の病気は悪くなる一方だと思っていたが、
前向きな気持ちになれた」

患者会利用後の変化

「自分でもリハビリ頑張らなきゃ！」と
自主トレに意欲的に取り組む

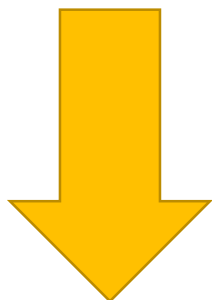
表情や行動の変化も...



- ・自分で作ったバッグを見せてくれる
- ・他利用者と雑談する

考察(1): 心理的不安の軽減

通所リハビリでの関わり

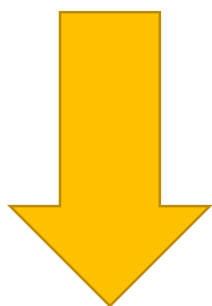


- ・機能維持
- ・面談や他者とのコミュニケーション
- ・患者会の紹介

次のステップに進むための後押し

考察(1): 心理的不安の軽減

患者会での関わり



〈ピアサポート〉

同じ悩みを抱えている人同士による
支え合い²⁾

共感や支援を得ることにより
少しずつ心情が変化していった

考察(1): 心理的不安の軽減

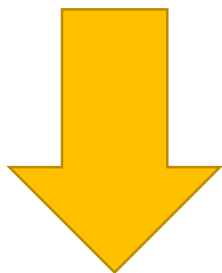


<u>診断</u>				
	<u>通所リハビリ 利用開始</u>		<u>患者会への 参加</u>	

通所リハビリ + 患者会の参加
= 障害を前向きに捉える契機

考察(2):リハビリ意欲増大について

通所リハビリでの取り組みと患者会への参加



- ・疾患に関する知識を得た
- ・心理的不安が軽減した

リハビリの必要性を理解でき
リハビリ意欲増大

考察(3): 双方の役割を活かす関わり

通所リハビリ

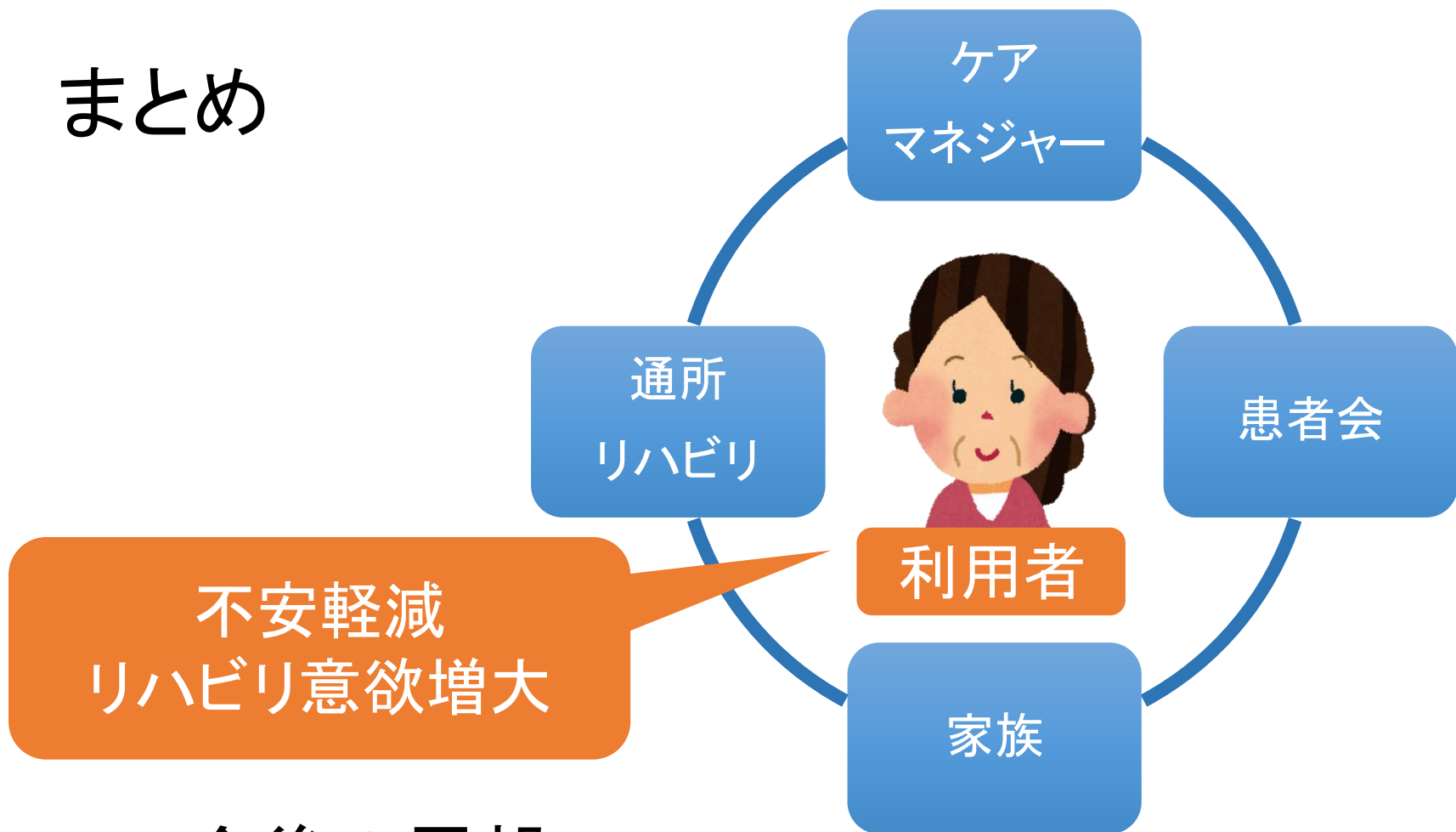
- 日常生活の動作
- 身体機能面や心理面の変化に対する支援

患者会

- ピアサポート
(同疾患者との関わり)

適切なタイミングと方法での紹介

まとめ



今後の展望

- ・感情を表出しやすい環境・関係性
- ・心理状態の変化に応じた展開